

入鹿小だより

～わくわく登校・ニコニコ下校～

熊野市立入鹿小学校
校長 樋口 佳洋
平成 30 年 9 月 27 日
第 12 号

合同運動会迫る！～悩ましいお天気～

紀和町合同運動会がいよいよ次の日曜日に迫ってきました。子どもたちは夏休み明けから練習に取り組み本番を迎えようとしていますが、今年は天候に悩まされ続けました。4日の台風接近による臨時休校から始まり、それ以降も2日に1日は雨が降る天気でした。千枚田の稲刈りや運動場整備作業はうまく雨間となり何とか実施することができましたが、それ以降も雨が多く、小中合同練習や総練習も雨との戦いとなりました。そんな中、子どもたちは一生懸命練習を続けてきましたが、運動場での練習時間がうまく取れず、例えば「よさこいソーラン」での立ち位置や各種目の入退場といった体育館では練習しがたい内容については、今一つの所があるかもしれません。そこは少し大目に見てやってください。当日は抜けるような青空の下運動会を開催できるよう、皆さんテール坊主を作って、雨雲を追いやりましょう。



お知らせ

11月11日（日）に予定しておりました入鹿中学校文化祭が諸般の事情により11月10日（土）の開催となりました。入鹿小学校児童も中学校文化祭で音楽発表として参加することから、11月10日（土）を授業日（朝から通常通り登校、給食あり）、12日（月）を振替休業日とさせていただきます。勝手な変更で申し訳ございませんが、子どもたちの音楽発表に多数ご参加いただきますようお願いいたします。

10月の予定

- 1日（月） 合同運動会振替休業日
- 5日（金） ALT来校
- 7日（日） 合同運動会予備日（この場合の振替休業日は9日）雨天時は以降順延
- 11日（水） スクールカウンセラー来校
- 12日（金） ALT来校、委員会活動（4～6年生：6限）
- 16日（火） 児童集会
- 19日（金） ALT来校
- 26日（金） ALT来校
- 30日（火） カレー遠足

ブラジルにある昔の日本

ブラジルにはたくさんの日系人がいます。もちろんマナウスもその例外ではありません。日系人というのは明治の終わりころから第二次世界大戦後にかけての移民政策などにより日本を離れて海外（例えば南北アメリカ諸国、東南アジア諸国など）に移り住み、そのままその国の国籍、永住権を取得した日本人のことをいいます。移住した本人が日系 1 世、その子が 2 世、孫が 3 世、さらに 4 世、5 世というように代を重ねるごとに、日本語をしゃべれなかったり、日本に行ったことがなかったりと「日本」の色が薄くなっていくことは否めません。

しかし、日系人の皆さんは、今、日本で暮らす日本人以上に、自分の体の中に日本人の血が流れていることに誇りをもっています。だからこそ、日本の文化もとても大切にしています。

マナウス郊外にエフィジェニオ・デ・サーレスという日系人が開拓した広い農場がある入植地があり、ここでは毎年盆踊りと花火大会が行われていました。昔、紀和町でも入鹿八幡宮の広場で盆踊りが行われていたそうですが（その映像をZTVで観たことがあります）、昔ながらの盆踊りの雰囲気、しかも踊りでかかっている曲が昔なつかしい曲ばかり。まさに昭和の盆踊りといったところでした。

また、マナウス市内にある日伯会館（ブラジルは漢字表記すると伯刺西爾なので、略して伯）の広場でも盆踊り大会が行われており、その周りには模擬店も出て、日本の祭そのものでした。

私たちはマナウスで多くの日系人の方と接し、かつお世話にもなりました。その方たちとお話をしてわかったことは、みなさん、日本というものをとても大切にしてみえるということでした。現在のブラジルにおいて日本人の存在はとても大きなものとなっています。入植された当時の皆さんは、どう考えても農業などできないであろう荒地やジャングルを与えられたにもかかわらず、地道な努力を重ねてその土地を開拓し、ブラジルに農業というものを根付かせたのです。今日のブラジルの繁栄の礎を築いたといっても過言ではありません。日本人特有の勤勉さや誠実さ、正直さがあったからこそ成功へと導くことができたと考えると、「日本」を大切にされる気持ちを理解することができます。だからこそ、後にブラジルへ行った日本人でさえも大切にされるのは、当時の日系人の皆さんの努力のおかげなのです。

あれから 14 年、当時の皆さんはまだお元気でしょうか。また、マナウスを訪問し、当時お世話になった方々とお話をしたくなってきました。

